

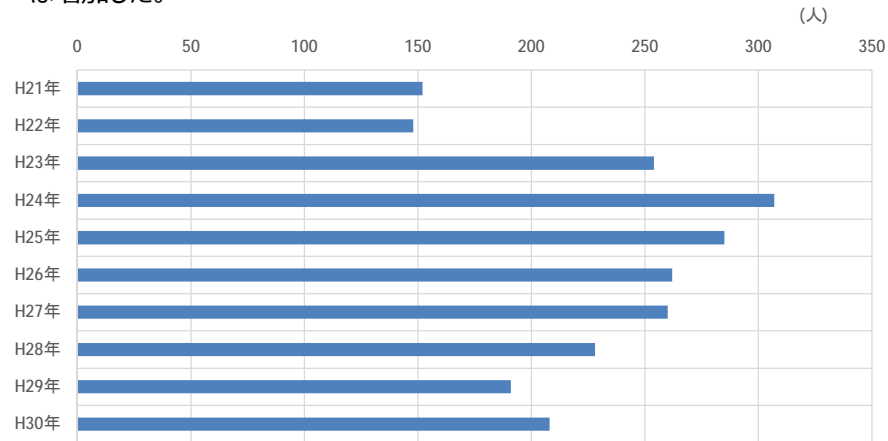
平成30年調査結果について

◆平成30年は**208件**（昨年より**17件増加**）

◆未受診や飛込みによる出産をするハイリスク妊産婦と児童虐待の背景要因は類似しており、多くの機関が継続して支援する必要がある。

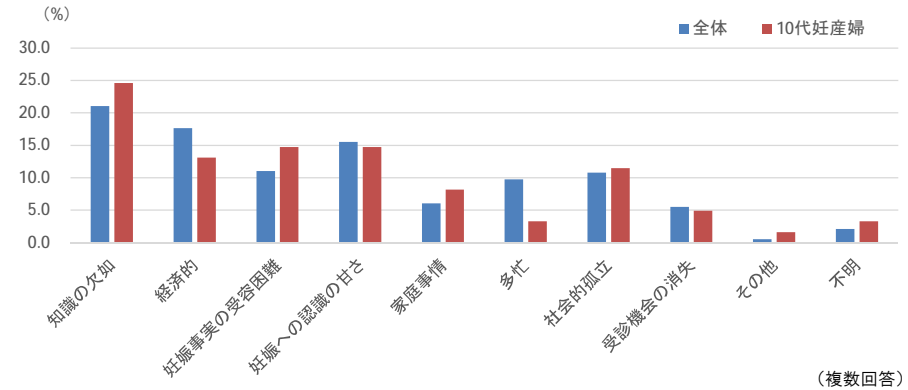
未受診妊婦数

●平成21年から調査開始後増加し、**24年の307人**をピークに減少が続いたが、**H30年は増加した**。

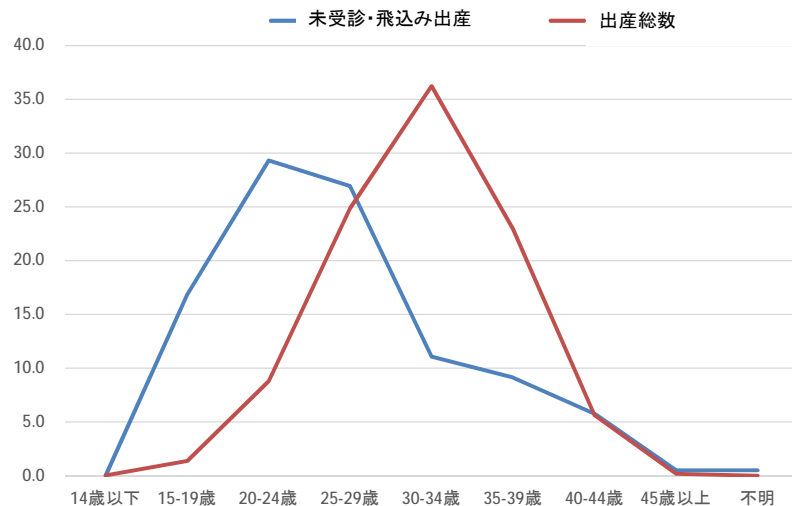


全体と10代妊産婦の未受診の理由

- 全体では、「知識の欠如」が**21.6%**と一番多く、ついで「経済的問題」が**18.1%**となっている。
- 10代妊産婦**は、妊娠に気づかなかったという「知識の欠如」、「妊娠の事実の受容困難」、「妊娠に対する認識の甘さ」が多くなっている。



未受診妊婦の年齢分布



●府内の出産年齢では**30～34歳**がピークである。

●未受診や飛込みによる出産では、幅広く分布しているが、前年よりも全体的に低年齢化した。**19歳以下は16.8%**で前年より増加した。**20～24歳**が最多年齢層で全体の**29.3%**を占め、次いで多い**25～29歳が26.9%**で、いずれの年齢層とも前年度より増加した。**30～34歳は11.1%**と前年より減少。**10歳～20歳台の占める割合は全体の73%**となり、前年より**5%**増加した。

●未受診や飛び込み出産をした妊婦の平均年齢は約**26.4歳**（不詳を除く）であった。